

**説教：イエスと共に歩むことは、あなたの師聖霊と共に歩むことである**

OICの皆さん、お早うございます。そして父の家によろこ。

今日も使徒ヨハネの手紙 第Iの続きです。聖書全体がそうであるように、この手紙も聖霊によって靈感されたものです。しかし、その前に、この親愛なるOICの信徒の皆さんにお知らせしたいのは、英語を母国語としない、あるいは第一言語としない、ここにいる国際的な人々に、私の説教をより理解しやすくしようと、私は試みているということです。私の願いは常に、神の言葉をギリシャ語新約聖書にあるような原義にできるだけ近い形で正しく分けることです。「正しく分けること」とは、原語の意味を明確に説明したり、引き出したりすることです。これは、聖霊がそれを書いた人々に与えた意味です。ギリシャ語に最も近い英訳は、New American Standard Bible (NASB1995)です。

今日の説教は日本語に訳されています。これは私が書いた説教を翻訳したものです。しかし、文化的な壁や考え方の違いを越えて神の言葉を伝えることは難しいことです。単なる「言葉」ではなく、真の意味が翻訳されていることを確信する必要があります。そこで私は、説教のベースとなる英語聖書として、New Living Translation (NLT) を使うことにしました。NLTは、英語があまり流暢でない人にも理解しやすい英文になっています。メッセージの真実性を保つために、私は各メッセージを準備する際、原典のギリシャ語新約聖書である NTG ( Nestle-Aland Novum Testamentum Graece ) を参照することが多くなります；約40年前、神学校に在籍していた学生時代から信頼してきた英語・ギリシア語聖書の辞書です。神の御言葉を正しく分かろうとする私の試みを通して、神があなたに与えたいと願っておられる素晴らしいのちの言葉を聞き逃してしまう皆さんのことを思うと、胸が痛み、胸が張り裂けそうです。あなたの忍耐に感謝します！

さて、使徒ヨハネの手紙 第Iからのこれまでのメッセージの中で、私はヨハネがクリスチャンに指示した意味を引き出そうとしてきました。それは、**イエスと親しく歩むこと**によって、彼らが神の御心を行うのを助けるためでした。このヨハネの手紙 第Iの中でヨハネがこれまで語ってきたことを、私は4つのことに要約しました：

1. 光の中を歩むことで、罪を犯さないこと 1章2.2節
  2. 愛のうちに歩むこと、特にクリスチャン同士を愛すること 2.2章から2.14章
  3. 心の聖さ、すなわち、神を望み、罪深い快樂を望まない心で歩むこと 2.15-25章
- そして今日、もう一つ加えました。

#### 4. 聖霊の教師と共に歩む 2.26-3.11 章

先週は、主が私たちに与えてくださった約束で締めくくりました。(1 ヨハネ 2.25/Beck)にあります：「そして、これこそが主が私たちに約束されたものである - 永久に続くいのちである！」私がニュー・アメリカン・スタンダードの翻訳ではなく、ベックの翻訳を選んだ理由は以下の通りです。イエスが私たちに約束したのは、「永遠の命」ではなく、「永久に続く命」だったからです。永遠とは「始まりも終わりもない」という意味です。神ご自身には始まりも終わりもないのです。私たちには始まりがあり、肉体の命は生まれたときに始まり、霊的な命は生まれ変わったときに始まりました。だから私たちは永久に続く命を持つクリスチャンとなったのです。私たちは永久に続くあるいは永久に続く命を持っています。今、私たちは死すべき肉体の中で、新しい霊的な肉体を待ち望んでいます。私たちの主イエスからの約束とは何と素晴らしいのでしょうか！

主の約束が私たちの心の奥底に安全に入り込み、父の愛によって、ヨハネは今、教会にいるにもかかわらず、彼らを騙してイエスから遠ざけようとする人々のことを思い起こさせています。

(1 ヨハネ 2.26)：「26 私は、あなたがたを惑わそうとする人たちについて以上のことを書いて来ました。」ヨハネは、イエスが神と等しく、肉体をもって来られたことを否定するこれらの人々を反キリストと呼びました。ヨハネはまた、クリスチャンはすでにこの試練に打ち勝つために必要なものをすべて持っていると強調しました。なぜなら彼らはぶどうの木、イエスにとどまっているからです。彼らは毎日イエスと共にあり、イエスと緊密な関係を持っています。彼らは、聖霊によって、自分たちの経験の中で真理を知りたがっています。ヨハネはそれを(1 ヨハネ 2.27)で強調しています：「27 あなたがたのばあいは、キリストから受けた注ぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教えを受ける必要がありません。彼の油がすべてのことについてあなたがたを教えるように、——その教えは真理であって偽りではありません。——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。」

教会と、今日の地上における神は聖霊であり、しばしば三位一体の第三位格と呼ばれます：三位一体とは、父、子、聖霊のことです。聖霊はイエスを現実のものとし、罪人に罪を確信させ、聖徒に救いとキリストを心に刻むよう励ましてください。ヨハネはクリスチャンたちに、彼らの助け主であり教師である聖霊に確信を持つことができると語っています。イエスを証しする聖霊の働きは非常に完全であり、(2 コリント 3.17, 18)には次のように記されています：「17 主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。…18 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じか

たちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」ヨハネは、聖霊を自分たちの教師として感じるクリスチャンは、キリストの言葉が自分たちの人生を導いてくれると確信していました。だから、彼らは教会にいる欺く者や異端者に従うことはないのです。あるいは、むしろ教会に行くのをやめてしまいました。彼らが教会を去る前に、反キリストの邪悪な種が蒔かれていたからです。これらの反キリスト思想は、教会における合意の平和を奪いました。

ヨハネは明らかに、何が真実かを教えてくれる人を必要としないクリスチャンたちに教えている人だったと、私は言及しなければなりません。

(エペソ 4. 11-12)でお話しした通りです：「11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、」

ヨハネは、正式な**信任状**も持たずに教会に入ってくる「教師たち」について、クリスチャンたちに警告しています。当時は、使徒たちやその弟子たち、また教会で認められた指導者たちからの手紙などが**信任状**でした。使徒たちとは、イエスを見、イエスによって遣わされた宣教師たちのことです。

(1 ヨハネ 2. 28)：「28 そこで、子どもたちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現われるとき、私たちが信頼を持ち、その来臨のときに、御前で恥じ入るということのないためです。」

**キリストとの交わりにとどまる** - 良い教師として、ヨハネは「キリストとの交わりにとどまる」というシンプルな注意を繰り返しています。キリストとの交わりにとどまる。

**肉となった御言葉**であるイエス・キリストとの交わりとは、創世記から黙示録に至るまで、聖書の最初から最後までです。しかし、もちろん、焦点は **個人的な交わりのためであり、それは、人としてのイエス・キリストという方と住む、留まる、英語の俗語では「一緒にぶらぶらする」という意味**です。

私が、Just A Closer Walk With Thee を歌ったとき、私は OIC 聖徒の皆さんがこの歌によって救われることを願い、祈りました。イエスと共にありたいというソングライターの熱い思いを感じ取っていただければと思いました。このヨハネの手紙の説教テーマも、「**イエスともっと近く歩む**」ということで選びました。

そうすれば、**主が戻られるときに**、と書かれています - OIC の聖徒の皆さん、ヨハネはこう言っていないことに気づいてほしです：「主が戻られたら」とは言っていないが、「主が戻られる時」と言っています。

私たちが定期的に、たとえ毎日でもイエスと親しく歩むなら、イエスの突然の出現は、私たちが考えるほど驚いたり、衝撃を受けたり、突然に感じたりすることはないでしょう。以前にもお話

ししたように、クリスチャンになりたての者であれ、年季の入った信者であれ、父の愛は日々の歩みの中で私たちを引き寄せてくれます。そのため、私たちは父の出現、すなわち雲に乗って戻って来られることを望むようになります。そうすれば、主は私たちを故郷に連れて行ってくださるのです！ 私たちはしばしば、主に近づいていると感じられない時期があります。しかし後になって、そう感じなかった時期も含めて、私たちが神の計画に従って成長してきたことを主が示してください。

次に、**あなたは勇気に満ち溢れるだろう** - 私たちの心の愛とは、キリストを見るときに **勇気に満ち溢れる**ことを意味します。私たちの確信は自分自身ではなく、キリストの内にあります。これこそが今日の勇気の源であり、同様にキリストが戻って来られるときの私たちの勇気の源です。

次に、「**恥じて彼から身を引いてはいけない**」とある - 私たちの誰も、天国のこちら側にいる間は完全ではありません。ブルース牧師、イエスが再臨される時、クリスチャンがイエスから身を引く原因は何でしょうかと、たずねるかもしれません。

そうですね、私には4つのことが思い浮かびます：1) 敵対的な世界の中で安全であり続けること、2) 神よりも人を恐れること、3) 自分の信仰が成長することを求めないこと、そして4) 不本意な罪を言い訳にし、それを克服しようとしめないこと。

1. 私たちがイエスと対面するとき、敵対的な世界で安全でいることが人生の最初の目的だったことに気づくかもしれません。安全な人生とは、しばしば、天に宝を置くことよりも、地上の経済力を得ることを人生の主目的とすることに基づいています。主イエスはこの弱さを**(マルコ 8. 36)**で警告しておられます「**36**人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。」

2. 恥を忍んで彼から身を引いた もう一つの理由は、神よりも人を恐れたことかもしれません。**(マルコ 8. 38)**：「**38**このような姦淫と罪の時代にあつて、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人のことを恥じます。」

3. 信仰の成長を求めない私たちは、救われる信仰を持つだけで満足してはいけません。私たちの信仰が成長するようにイエスに求めなければなりません。新しく生まれ変わったクリスチャンは、使徒ペテロが**(1 ペテロ 2. 2)**で書いているようになるべきです：「**2**生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」

しかし、使徒パウロは、年配のクリスチャンたちにライフスタイルを変えるように勧め、あるいは強く勧めました。彼らは霊的成長を求めている信者たちでした。このことは**(ヘブル 5. 11-**

14)を見てもわかります：「11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。12 あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。13 まだ乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。」親愛なる OIC のクリスチャンの皆さん。パウロが霊的な怠惰を正していたヘブル人クリスチャンのように、あなたがイエスに見られているかどうか、イエスに尋ねることが大切です。イエスは、より信仰が成熟し、聖書の教養を身につけたクリスチャンを、ご自分の羊たちの模範となるように置いておられます。これは、あなたを落胆させるためでも、自責の念に駆られるためでもありません。神は、あなたが霊的に鈍く、聞く耳を持たないようであるかどうかを見るために、あなたの心を見ておられます(ヘブル 5. 11)。神があなたを評価したり裁いたりするのは、あなたの心であって、学ぶのが遅いかどうかではありません。どんな裁きも、あなたが再び成長するのを助けるためなのです。

4. 自分の不本意な罪の習慣を、祈りによって克服しようという気持ちもなく、弁解していたことに気づきます。あなたは罪を犯すことを望まずに罪を犯したかもしれない。しかし、そのような不本意な罪を犯さないように自分を変えてくれるよう神に求めるのではなく、「悪い習慣」だと言い訳しているのです。(ローマ 8. 37)にあるように、クリスチャンの確信を築くために聖霊の力が与えられ、神は誠実な祈りに答えてくださる：「37 しかし、私たちは、私たちが愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」

上記を再度見ると 1) 敵対的な世界で安全であり続けること、2) 神よりも人を恐れること、3) 信仰が成長することを求めないこと、4) 不本意の罪にたいして言い訳し、それを克服しようとしないうこと。これらが、イエスの突然の出現を恥じるが喜ばない、それほど深刻なことだとわかります。

ヨハネは教会に、そして現代の私たちすべてに、私たちがそのような残念な状態にいる必要がないことを思い出させています。恥ずかしがってイエスから身を引く必要はないのです。私たちは皆、イエスとの交わりを人生の第一の目的とし続けることが可能です。そうすれば、イエスにお会いするとき、私たちは大きな喜びだけを得ることができるでしょう。

次は (1 ヨハネ 2. 29)：「29 もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行なう者がみな神から生まれたこともわかるはずです。」ここでヨハネは、(1 ヨハネ 2. 3)で書いたことに言及しています：「3 もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。」

ライフスタイルにおいて、正しいことを行うクリスチャンは、イエスの戒めを守っているに違いないのです。イエスの正しい品性は、彼らの生活によって示されます。彼らは神の子どもです。また、我々の主イエス御自身がこう言われています。(マタイ 7.16)：「16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。」

ヨハネは今、「神は私たちを愛しておられる」という単純な真理を思い出させてくれます。(1ヨハネ 3.1)で、私たちの父がどれほど私たちを愛しておられるかをご覧ください！しかし、この世に属する人々は、神を知らないので、私たちが神の子であることを認めません。

親愛なる OIC の聖徒の皆さん、神を父、お父ちゃんと呼び、神が私たちを子と呼んでくださることを知ることは、とても純粋な喜びです。父親が誰かを自分の子供と呼ぶとき、特別な感情と態度があります。その子には誇りがあります。父なる神は、私たちすべてのクリスチャンに対して、いつもそのような感じておられるのです。私たちは主の賞品です。私たちはひとり子によって買い取られました。そして、私たちは天にある主の倉のための生きた宝なのです。私たちに対する主の愛は、(申命記 33.27)にあるように永遠です：「27 昔よりの神は、住む家。永遠の腕が下に。」もしかしたら、イエスと出会った頃のことや、賛美歌や讃美歌を思い出せるかもしれません。数ヶ月前、OIC ワーシップ・チームのリーダーの一人であるシンゴが、これらの歌を思い起こすように導いてくれました。私たちが生まれ変わってから今に至るまで、それは永遠、今から永遠までのほんの一部分なのです！

しかし、神が私やあなたのような罪人を愛してくださるとは、このような愛、このような不思議な愛です！ 私たちはイエスを受け入れました！今、私たちはイエスとともに栄光に向かって歩んでいます。今、神はどれほど私たちを愛して下さっていることでしょうか！主は、私たちに対する大いなる愛に比べれば、私たちの愛など微々たるものだが、いつも私たちに特別な愛情を注いで下さっています。そう、主は私たちを「愛する子どもたち」と呼んでくださいます。しかし、この世に属する人々は神を知らないで、(1ヨハネ 3.1b)にあるように、私たちが神の子であることを認識しません。これは、すべてのクリスチャンが背負わなければならない十字架の重さの一部です。ノン・クリスチャンは私たちを拒絶し、不当に扱います。彼らは私たちの父である神を知りません.....彼らは愛を知らないからです！

(1ヨハネ 3.2-3)：「2 愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現われたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。3

キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」

**キリストが戻られる、あるいは現れる時** - 聖書はしばしば、「良い知らせ」の前に「悪い知らせ」を提示する。私たちは(1ヨハネ 2.28)で、怠惰な、のろのろしたクリスチャンの生き方についての警告を読んだばかりです！そしてイエスが突然現れたら、クリスチャンたちはどんな恥をかくでしょうか！

今、私たちはイエスと交わりたいという心を持つ者のために、良い知らせを聞く。 - しかし、私たちは彼のようになることを知っています。というのは、私たちはイエスをありのままを見るからです。

信仰の弱さを感じている OIC のクリスチャンへ：ブルース牧師、私の心はイエスと交わりたいという願望を持ち続けていないようです...毎日毎日！と質問するかもしれません。そうです。

聖書の(使徒 10.34/KJ21)の中で言っています。：「34 そこでペテロは、口を開いてこういった。

「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、」神がペテロやパウロや他のクリスチャンや私にさえして下さったことを、神はあなたにもして下さいます。あなたの弱く震える信仰の膝を強めてくださるように、主に求めてください。イエスへの望みを高めてください。そうしてくださるでしょう！

さて、罪がなく、完全で、愛に溢れ、公正で、聖なる、力強い神の御子イエスのようになるとは、どのようなことか想像できますか？使徒ヨハネは、聖書の息吹を吹き込まれた聖霊によって、このことを宣言しています。それはクリスチャンに対する神の約束です。私は先週のメッセージは副題は「世界は過ぎ去る」です。 - 私は言いました：「この世の誘惑に屈することで得られる一時的な利益は、イエスとともに歩むことと比べて、次のようなものです。(1ヨハネ 2.17)：「17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。」

来年、OIC が終末論（時の終わりに関する聖書的研究）を含む神学特別クラスを設けてくれるよう祈っています。

私は、手元のテキストが許す限り、説教の中にこのようなことを含めるようにしています。聖霊の助けを借りて、少し遠出をする価値があります。 **牧師よ、なぜですか？** 何故なら、私たちは皆、すぐに現在の世界に「満足しすぎたり、安住しすぎたり」してしまうからです。

私たちがまだこの世にいる間、愛する父の心には、すべての子に対する喜びと幸せがあります。しかし、使徒パウロは、彼が教えていたイエスの羊たちに、苦しみの現実を明らかにしました。というのは、彼は(使徒 14.21-22)の中で言っています：「21 彼らはその町で福音を宣べ、多く

の人を弟子としてから、ルステラとイコニオムとアンテオケとに引き返して、**22** 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまるように勧め、「私たちが神の国にはいるには、多くの苦しみを経なければならない。」と言った。」

私たち一人ひとりが苦しまなければならない苦難を知っているのは神だけです。チャールズ・ハドン・スポルジョンがかつて言ったように、パウロはそれを知っていました：「イエスからの最大の慰めは、最も厳しい軌跡の間に起こるのだ！」。いつかイエスに会えるという私たちの焦点は、輝く星です。海上の船乗りのように、神は私たちの輝く星イエスによって私たちの羅針盤を定めてくださいます。私たちのコンパス、つまり私たちの帆船の方向は、こうして私たちの栄光への道を描くように設定されます。私たちはイエスを見るために前を見、またイエスのようになるために前を見ます。

この次の **(1 ヨハネ 3.3)**には私たちの人生における罪を克服する素晴らしい力の源が記されています：「**3** キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」これが、私が聖書の終わりの時代について兄弟姉妹に説教し、教えたいと思うもう一つの理由です。私たちが前向きに考えることは、今日、罪を選ぶ愚かさを拒む上で、自然な助けもあります。しかし、それはもちろん超自然的なものでもあります。聖霊は、{イエス}が聖であるように、私たちが、主の再臨のときに主の愛の腕の中に迎えられることを熱望している時、私たちが聖であり続けるための力を与えてくださいます。

さて、ヨハネは偽キリスト教徒や反キリスト教徒の活動と比較した真のクリスチャンの生き方というテーマに戻ります。**(1 ヨハネ 3.4-6)**：「**4** 罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。**5** キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。**6** だれでもキリストのうちにとどまる者は、罪のうちに歩みません。罪のうちに歩む者はだれも、キリストを見てもないし、知ってもいないのです。」

イエスは私たちの罪のために死に、神が与えてくださった律法の呪いから私たちを解放するために地上に来られました。神の律法のもとで、神にとって正しい、あるいは受け入れられるとは、神の律法を決して破らないこと、あるいは罪を犯さないことを意味します。全ての人は罪をもって生まれます **(詩篇 51.5)**：「**5** ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。」だから、人間が罪を犯さないことは不可能でした。人間は神から切り離されたので、呪われた状態です。しかし、イエスは十字架上で人類のために死なれ、神からの無償の贈り物を受け入れようとするすべての人を義とされました。**(ガラテヤ 3.13)**：「**13** キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいま



した。なぜなら、「木にかけられる者はすべてのろわれたものである。」と書いてあるからです。」

イエスが神の律法を守ることによって救いを得るという呪いから私たちを解放して下さったとき、イエスは神の律法の善悪を廃止したり無効にしたりしたのではありません。

イエスが十字架にかかれる前に言われました(マタイ 5.17) : 「17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。」

次は、(1 ヨハネ 3.4/NLT) : 「4 罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです。」ヨハネは、神の律法を破るという言葉を使って、律法は依然として神の律法として存在し、それを破ることは依然として罪であるという一つのことを明確にしています！ヨハネは、クリスチャンが救いのために律法から自由になることと、神の律法を破る自由、罪を犯す自由を混同することを懸念したのです。神は新約聖書が書かれた時と場所とギリシヤ語を選ばれました。

ほとんどの英訳は、この節と *Everyone who sins* という言葉の重要性を見逃しています。原語のギリシヤ語には動詞の時制が細かく書かれており、正しい訳はこうです。

(1 ヨハネ 3.4) : 「罪を犯す人は皆、神の律法も破っており、罪は無法である。」

私が若いクリスチャンだった頃、この聖句を初めて読んだとき、たった一度でも罪を犯したら断罪されるのではないかという恐れを感じたことを覚えています。使徒ヨハネは決して罪を勧めませんでした。神はクリスチャンが罪を犯したために救いを失うという束縛の下に戻ることを望んでおられないことを知っていました。ヨハネが示しているのは、**罪を犯すことを習慣として**いる人が、**無法の中を歩んでいる**ライフスタイルのことです。明らかに、そしてはっきりと周囲にわかるように、この人はイエスと密接な交わりをしていません。

「5 キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。」

再び、ギリシヤ語の動詞の時制で読んでみましょう。(1 ヨハネ 3.6) には「罪」を犯すことと生活習慣的にあるいは生活スタイルが「罪深い」との間の重要な違いが見えます。「6 彼のうちに生き続ける者は、罪を犯し続けることはない(ギリシア語)。しかし、罪を犯し続ける者は、彼を知らないし、彼が誰であるかを理解(Greek-ginosko) していない。」

ヨハネはまたもやギリシヤ語の動詞 *ginosko* を使っています。これは、経験によって個人的に知ることを意味します。

彼はオイダ oida というギリシャ語を使いませんでした。これは知的な、あるいは**頭腦的な知識**のみを意味します。

私は3人の子供の父親として、子供たちが私とリラックスして親しげに話をするように、また私が子供たちを祈りに導くように注意しました。聖書の知識が増えるだけで満足するのは嫌だったのです。私は牧師として、ここにいるすべての人を、私の子供ではなく神のものとして励ましたいと願っています。イエスが私たちの救い主であるためには、私たちの心の中に... 何らかの形で... 入り込まなければなりません。聖霊は、私たちの頭の中の知識も使いますが、たいていは、キリストとの真の関係のために、頭と心の知識、この二つを結びつけるために、何らかの外側の経験へと導いてくださいます。現代で最も知的で聡明なクリスチャンの一人に C. S. ルイスがいます。彼は当初、実は反キリスト思想の持ち主でした。しかし、彼の著書の中に、キリストにある彼の新しい人生を表現した明確なタイトルがあります。その本とは、『*Surprised By Joy*』（邦題『喜びのおとずれ』）です。古い賛美歌にこうあります： オー・ハッピー・デイ... オー・ハッピー・エイ、イエスが私の罪を洗い流してくださったとき！すべての浮き沈み、祝福と戦い、勝利と喪失... C. S. ルイスをこれほど幸福にしたものを思い出しましょう。イエスは私の罪とあなたの罪を取り除いてくださいました。イエスが十字架上で言われたように、イエスは死に臨んで肉体を去る直前、こう言われた：「完了した！」（ヨハネ 19：30）これは喜びです！私たちの罪はもはや、愛である神から私たちを引き離すことはできません。イエスはすべきことを終えてくださいました！幸せな日よ。これは心の知識であり、頭の知識とともに、私たちは「経験的キリスト教」、つまりイエスについて経験するものを持っています。

さて、（1 ヨハネ 3.7）：「7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行なう者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。」人々が正しいことを行うとき、それはキリストが正しいように、彼らが正しいことを示しています。ヨハネは教会にいる偽キリスト教徒や 神の敵である反キリスト教徒を知っていました。

ヨハネは真の信者に、一步下がって周りの教会に通う人々の行動を評価するように勧めました。この評価には、善悪に関する知識を用いる必要があります。クリスチャンは、イエス・キリストとその地上での罪のない生涯を、正しさかどうかで**判断**します。彼を知ることによって、私たちは正しく評価することができます。

長老であり、愛の使徒である使徒ヨハネは、彼が親愛なる子供たちと呼ぶ人々に、このことを思い出させています。

（1 ヨハネ 3.8）：「8 罪のうちに歩む者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。」

今日の世界の人口は、**8, 161, 972, 572** です。これらの人々は皆、神の子か 悪魔の子かのどちらかです。ヨハネはまた、クリスチャンだと名乗ったり公言したりする人々に騙されたり欺かれたりしないように、教会を助けたいと願っています。彼らは、生き方として罪を犯し続ける人々です。彼らは偽りのクリスチャンです。彼らの生き方には、義であるイエスのような香りや味や感覚はないのです。

偽のクリスチャンの罪のライフスタイルや習慣は、彼らが悪魔に属していることを示しています。ヨハネは、罪はその根源において非常に深刻であることを諸教会に思い起こさせます。罪の源は悪魔です。

次に、ヨハネは、教会に思い起こさせています (1 ヨハネ 3.8b) : 「8b 神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。」 (1 John 3.5) のように、イエスに対する神への喜びと感謝があります : 「5 キリストが現われたのは罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。」

死によって御霊を御父の御手に委ねる直前、イエスは十字架上でこう言われました : 「完了した！」私たちの罪はもはや、愛である神から私たちを引き離すことはできません。イエスはそのすべきことを終えたのです！ おめでとう！

真のクリスチャンは、罪を犯すことを習慣としません！ 聖書全集 (TCBL) の引用です : 「ヨハネは、神の子に期待される聖さの基準について、ここで最も強く述べている。この節 (9 節) は、真理を否定的な形で述べ、次に肯定的な形で述べるという、彼のよくあるパターンに従っている。「(9 節) 否定形では、罪を犯さないようにしなさい、そして肯定形では、神の命が彼らの内にあるからだ。(1 ヨハネ 3.9) 神の家族に生まれた者は、罪を犯す習慣を持たない。神の子である以上、罪を犯し続けることはできないのだ。」

そして (TCBL の) 注解者は、「神の家族に生まれた」という言葉を、自然科学における考えや教えと結びつけています。科学で言えば、種や遺伝の研究です。私はこのことを確かめたかったので、ギリシャ語新約聖書 (NTG) を見てみました。そして、「神の家族に生まれた」ということと、遺伝学の科学的知識との関連性に、私は同意します。(NLT) の「神の命が彼らの内にあるから」という言葉は、ギリシャ語新約聖書の原文の「神の種(スペルマ(sperma)が彼の内に宿っているから」という言葉から翻訳されたものです。だから、(TCBL の) この考え方は合っています。つまり、生まれながらにして遺伝子を介して形質が受け継がれることは、キリストにおける再生時に超自然的に形質が受け継がれることと同じだということです。神の種 (スペルマ

(*sperma*) とは、生まれ変わる時に聖霊がクリスチャンの体に入ることによって与えられるイエスの性質を意味します。

これは、イエスの次の発言とも一致します。(Matthew 7.16) : 「16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。」

でもブルース牧師、私はまだ時々罪を犯します！ 私の中に神の品性の種はありますか？ はい、あります！ 罪とは、神聖さの目標である神の律法の的を外すことです。

聖霊は私たちが、二度と的を外さないような人生に導いてくださいます。

(1 ヨハネ 2.1) : 「1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪{ギリシャ語—決して二度と罪を犯さない}を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。」 私たちは、罪を犯し続ける人のために、イエスが弁護者として差し出されることはないと見ています。というのは、(1 ヨハネ 3.8)で言います：「8 罪のうちを歩む者は、悪魔から出た者です。」 しかし、神の御言葉によれば、真のクリスチャンであれば誰でも、神の聖なる性質、神の種、すなわち自分の内におられるキリストがそれを妨げるので、生き方として罪を実践することは不可能であることがわかります。それは、確信する理由であり、神のことに怠惰になる理由ではないのです。イエスとの交わりを求めるクリスチャンは、聖霊に自分の内にある神の種に水を与える機会を与えられます。

祈りましょう。

## 参考文献

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995 by The Lockman Foundation. All rights reserved.

NTG - Novum Testamentum Graece/Nestle-Aland, Pined in Germany 1898 & 1979

TCBL- The Complete Biblical Library, The New Testament Study Bible, Empowered Life Academic, Tulsa, Oklahoma 74145 USANTL -, *Holy Bible*, New Living Translation, copyright © 1996, 2004, 2015 by Tyndale House Foundation. Used by permission of Tyndale House Publishers, Inc., Carol Stream, Illinois 60188. All rights reserved.